

# まってるすけ高柳

## 器と往還者

高柳農業振興会 事務局長 伊藤直樹

■中山間地の耕作地に対して国から支払われる「中山間地域等直接支払交付金事業」が、高柳町においても20数年前から取り込まれてきました。現在は高柳町19集落が1つの広域協定となり「高柳農業振興会」が構築されると併行して、当初高柳町役場で担われてきた事務機能も、常勤職員2名の事務局体制へと移行しました。

■農業振興会が現在取り組む、ふたつのカタカナ事業をご紹介します。

- ①「アグリパス」：農を軸とした暮らしをしたいという希望者を受け入れ、高柳町で学びと実践をする最長2年間の実習プログラム
- ②「ワークライス」：1日あるいは数日泊まって農作業をお手伝いする援農プログラム。市外・県外からも希望者を迎え、リピーター（往還者）の創出へとつながり始めている。

## ■「農の扉」と「米のお仕事」

①3年前から始めた「アグリパス」は現在2人の実習生を迎え、門出の指導農業士・鈴木貴良さん、就農者の山崎智仁さん&矢代耕太さん以外にも多様な方と関わり合う体制を取って進めています

2年目を迎えた堀祐也さん（米山台）は稲、小麦、豆等の栽培を学ぶ一方で、栃ヶ原で「ホーリーバジル」を育て商品化を模索しています。

今春から参加した中村美沙恵さんは田代にリターンして少しずつ集落での米づくりを継承していきたいと意欲的です。

2人に共通していたのは、「自分で食べるものを自分でつくりたい」というきっかけでした。

